

つづきナビ ⑩江戸時代の農村風景(次大夫堀)

(徒歩 4km) 2022/9/29 前川

催行日：2022年10月26日(水) 9:30 田園都市線 二子玉川駅 改札を出て東口

ルート：二子玉川駅からバス 次大夫堀公園前下車 ①次大夫堀公園～②竹山市民緑地～③須賀神社
④稲荷塚古墳～⑤喜多見農業公園～⑥慶元寺～⑦氷川神社～⑧喜多見まちづくりセンター
帰路：次大夫堀公園前からバスで二子玉川駅に戻る。(次大夫堀公園をゆっくり見て廻るのも良いです)

・中川駅 8:56-8:59 あざみ野(各停)9:06-9:25 二子玉川駅 バス(玉07)東口3 成城学園前駅西口行 9:33～9:48

世田谷地域風景資産
生活や文化が感じられる街並みや、人々が行き交う商店街の賑わい等、そこに暮らす人々に共有され、みんなが誇りと愛着を持っている大切な風景を守り、育て、つくることを目的とし、世田谷区風景づくり条例に基づき選定された。

- 1 喜多見五丁目 竹山市民緑地の竹林と垣根
- 2 喜多見大橋から見た野川上流の眺め
- 3 慶元寺三重塔の見える風景
- 4 喜多見・歴史の道～慶元寺・氷川神社界隈
- 5 畑の間の土の道
- 6 須賀神社のムクノキ

世田谷名木百選
区民等によって構成された名木百選選定委員会において、区内で親しまれている樹木を名木百選として1987(昭和62)年に選定しました。30年以上を経て名木の状況が変わったことから、新規名木を公募し、2020(令和2)年に既存の名木と合わせて150名木を選定しました。

生産緑地地区
市街化区域の農地における緑地機能を積極的に評価し、都市環境づくりに役立つ農地を保全することで、良好な都市環境の形成を図る都市計画の制度です。

案内板がある場所
世田谷地域風景資産
世田谷名木百選
世田谷名木百選(番外編)
だれでもトイレ
AED
バスのりばとバス路線
生産緑地地区

**改札は前方に一つだけ
改札を出て右手(東口)に集合**

二子玉川駅 バス停(始発)
東口3番乗場 玉07
成城学園前駅西口行
9時20,26,33,40,47分
東急・小田急

**あざみ野・田園都市線は、各停がお勧め。
田園都市線の急行は9時台でも混んでいます。**

分散乗車の勧め
早く着いた方は、先のバスに乗り、次大夫堀公園前でお待ちください。
(バス乗車は15分間)

二子玉川駅のバス
東3番乗場(玉07)
成城学園前駅西口行
9時14, 20, 26, 33, 40

⑩江戸時代の農村風景(次大夫堀) 2022年10月26日(水)9:30 二子玉川駅

二子玉川駅の改札は前方に1ヶ所だけです。改札を出て右手・東口に集合、バスは東3番乗場(玉07)成城学園前駅西口行 9:33~9:48 次大夫堀公園前 バス停で下車です。

・早く来た方は、先のバスに乗り「次大夫堀公園前」でお待ち下さい。(9時14, 20, 26, 33, 40)尚、次大夫堀公園、まちづくりセンター 以外にはトイレがありませんので注意願います。

(江戸時代の農村風景 世田谷区の資料から)

喜多見4・5丁目は世田谷区でも特に農地が多く残る地域で、農地の面積は約2.2ha、地区の約4.5%が農地として利用され、現在19軒余りの農家が様々な農産物を生産している。主なものは、大根、じゃがいも、小松菜、トマト、キャベツ、キュウリ、里芋、ネギ、茄子、白菜等。

江戸時代は殆どが農業で、米・麦等穀物の他、大根、瓜、葉野菜等を生産、明治の頃から養蚕を兼業する農家が増え、生産も米穀類の他、大豆、小豆、エンドウ、甘藷等多種にわたっていた。

現在、農の風景育成地区(東京都の制度)に指定され、農業振興や農地保全と共に、樹林の保全、地域の資産や風景の継承、農を活かしたまちづくり等の取り組みを進めている。

次大夫堀公園

次大夫堀公園では、野川から取水して、昔ながらのきれいな流れを復元、その流れに沿って当時の古民家や水田を配置している。民家園では江戸後期から明治時代の農村風景を再現、農村に伝わる行事等も行っており、昔ながらの生活や風習を体験することが出来る。

園内の里山農園は誰もが一緒に楽しめる農園で、食育や環境教育等のプログラムを実施している。

*六郷用水堀は、多摩川の北岸世田谷領、六郷領35ヶ村の灌漑用水として慶長2年(1597)に着工。14年間かけて完成した用水堀である。「次大夫堀」とは、開削の用水奉行であった幕府代官小泉次大夫吉次の功績を讃えて名付けられた。

※帰路に立ち寄り、民家園をゆっくり見るのも良いです。



竹山市民緑地

現在は区立喜多見 遊びの場の一部として管理されているモウソウチクの林。ボランティア参加による管理・運営がなされており、竹の間引きや草刈り、園路づくり等の管理作業の他、竹細工づくり等のイベントへの協力等が行われている。



須賀神社

承応年間(1652~1654) 喜多見久大夫重勝が勧請とされている。湯花神事は社殿前に大釜に湯を沸かし、笹の葉で湯を振りかける行事で、湯がかかると一年間病気をしないとされている。ご神木のムクノキは区の名木百選に選ばれ、鳥や獣が木の洞にすんでいたため、昔は「鳴く木」として有名であったとか。



第六天塚古墳（須賀神社の裏の竹やぶ）

喜多見古墳群中の1基で、世田谷区の指定史跡。江戸時代は墳上に第六天社があったことから第六天塚といわれている。区の調査では、直径8m、高2.7mの円墳で、幅7mの周溝が確認された。墳頂部には礫層と思われる埋葬主体部が認められ、墳丘端部や周溝から円筒埴輪片が多数採集された。未発掘であるが、円筒埴輪の形式から6世紀前半のものと推定される。



稲荷塚古墳

喜多見古墳群中の一基で、世田谷区の指定史跡。墳丘の直径13m、高さ2.5mの円墳、周囲に幅2.5mの周溝がめぐっている。7世紀初めの首長の墓と考えられている。埋葬施設は横穴式石室で、長さ6m凝灰岩切石を積み上げて羽子板状に作られている。発掘調査の結果、石室内から圭頭太刀、直刀、耳環、土師器須恵器等が出土している。



喜多見農業公園

この公園は、農作業や野菜づくりの体験を通して農業の魅力を知ってもらうとともに、地域を支えてきた農業の歴史や文化を伝え、喜多見の農のある豊かな風景を子供たちの世代まで残していくために開設された。子供から大人まで、農業を知っている人も知らない人も、みんなで育てる公園。

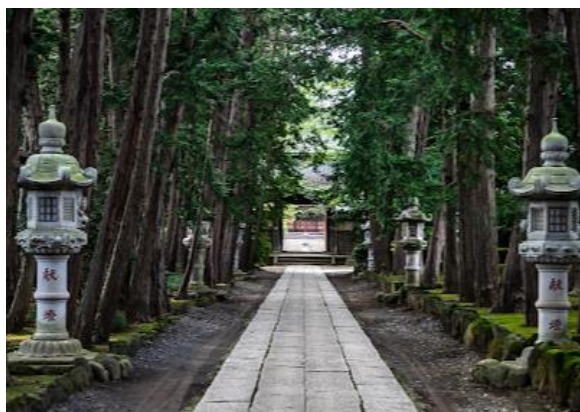


慶元寺（浄土宗）

文治2年(1186)、江戸太郎重長が今の皇居紅葉山辺に開基した江戸氏の氏寺で、室町時代の中頃、江戸氏の喜多見移居に伴いこの地に移った。本堂は享保元年(1716)に再建されたもので、現存する区内寺院の本堂では最古の建造物であるといわれている。墓地には江戸氏、喜多見氏の墓があり、境内には喜多見古墳群中の4基が現存。



参道は長く、墓地も広く都内とは思えない静かさです。



氷川神社

天平 12 年(740)に素戔嗚尊を奉祀したことに始まると伝えられている。永禄13年(1570)に、領主江戸刑部頼忠により再興された。その子孫喜多見勝忠が神領、五石二斗を寄進したほか、社前の二の鳥居は承応 3 年(1654)に喜多見重恒、重勝兄弟によって建立寄進される等、江戸氏、喜多見氏とゆかりの深い神社。



知行院

本尊は薬師如来で、延暦寺の末寺として、文明年間(1469~1487)頃の草創で、天正 16 年(1588)頼存法印が中興開山したといわれている。喜多見若狭守勝忠が館の鬼門除けの祈願所として不動明王と閻魔大王を合わせ祀り、除地を寄進した。



喜多見まちづくりセンター

休憩後、次太夫堀公園前からバスで二子玉川駅に戻ります。
尚、次太夫堀公園に戻り、園内の古民家や展示をゆっくり見て廻るのもお勧めです。

次太夫堀公園内の民家園



旧城田家住宅母屋



旧安藤家住宅

(参考資料)

- * 喜多見 4・5 丁目農の風景育成地区案内マップ(世田谷区)
- * 喜多見まちづくりセンター管内史跡案内[改訂版](喜多見まちづくりセンター)
- * 各案内板